

企画名： 「核燃に頼らない村づくりを」  
実施日時： 2012年1月14日(土) 19:00~20:30  
実施場所： パシフィコ横浜会議センター 3F 313+314  
登壇者： 鎌仲ひとみ（映画監督）  
菊川慶子（花とハーブの里代表）  
参加人数： 約100名  
文責： 菊川慶子（花とハーブの里代表）

六ヶ所村はいま、核燃サイクル施設に大きく依存しています。また村民も生計を維持する手段として、原子力産業を欠かせないものとしてとらえています。

その村の現状を菊川が、破たんした核燃サイクルの問題点を鎌仲ひとみさんが、紹介しました。

プロジェクターやパワーポイントを駆使し、時には痛烈な皮肉も交えながら、難しい問題をわかりやすい言葉で話す鎌仲さんのトークはいつものように聞きごたえがありました。

「Numoの広告で、冒頭に『高レベル廃棄物が増え続ける現状に目をそむけることは許されません』と。許されません、ですよ。それで、ここではガラス溶融炉は国産技術で、だって」

私は地元新聞『東奥日報』の切り抜きを少し鎌仲さんのパソコンに取り込んでもらい、それを交えながら、再処理工場のガラス溶融炉の熱上げが始まった六ヶ所村の現状を話しました。

夜の部ということもあって子どもの姿は見えませんでした。40代以上の男女が大多数。中ほどの席には外国の方も何人かいて、同時通訳をする声も聞こえました。20代、30代の若者たちも何人か。

#### 会場の参加者から

◎「六ヶ所村の問題をもっと多くの人たちに伝えなければならないと思うのですが、どうやって広めたらいいのか、何かお考えはありますか」

◎3.11以降、六ヶ所村の中では雰囲気が変わりましたか？

◎核燃サイクル施設で働いている人たちに、放射能汚染の恐怖などはないのでしょうか。

など、時間ぎりぎりまでたくさんの手が上がり、意見が寄せられました。

六ヶ所村では1月10日から再処理工場のアクティブ試験再開に向けて、3年半ぶりに準備が始まりました。福島原発事故の汚染がますます広がっている今、使い道のないプルトニウムを取り出すという目的で、これ以上自然を汚す再処理工場を稼働させてはならないと訴えました。その思いを会場の皆さんと共有できていたら幸いです。